

聖書：ヨシュア記6章1～11節

説教：沈黙しなさい

1 不思議な戦い

(1) 六日間

聖書を読むと、しばしば不思議なことや疑問に思われることが出て来ます。今日の箇所も疑問が一杯です。

ヨシュアは約束の地カナンに入るために、ヨルダン川を渡ります。次に控えている関門はエリコです。この町を攻め落とさなければ前に進むことができません。エリコは高い城壁で囲まれています。加えて、イスラエルの攻撃に備えて、門を閉め、籠城しても長期間耐えられるように万全の準備を整えています。外から攻め落とすことは容易ではありません。

そのようなエリコを前にして、ヨシュアは何をしたか。六日間、契約の箱をかつぎエリコの周囲を一日に一度だけ歩く。それだけです。武器を用意したとか、精鋭部隊を訓練したとか、戦いの計画を練ったとか、そんなことはしていません。これで本当に勝てるのでしょうか。結論から言えば、たしかにエリコは七日目に陥落します。

でも、なぜこんなことをさせるのでしょうか。六日間城壁の周りを回ることによってどんな意味があったのでしょうか。それが一つ目の疑問です。

(2) 陣形

二つ目の疑問は隊列の組み方です。8、9節を読みます。「ヨシュアが言ったとき、七人の祭司たちが、七つのおひつ時の角笛を

もって主の前を進み、角笛を吹き鳴らした。主の契約の箱は、そのうしろを進んだ。武装した者たちは、角笛を吹き鳴らす祭司たちの先を行き、しんがり箱の後ろを進んだ。彼らは進みながら、角笛を吹き鳴らした。」

先頭には、武装した者たちが立ちます。その後ろには、七つの角笛を持った七人の祭司たちが続き、町を周りながら角笛を吹き鳴らします。祭司たちの後ろに今度は契約の箱が進みます。そして隊列の一番最後、そこも武装した者たちで固められています。こんな順番です。

将棋の世界では、相手を攻めるための駒を置くパターンがいろいろあって、そのパターンのことを陣形と呼ぶのだそうです。どのような陣形を取るかで勝敗の行方を大きく左右すると言われていています。ここでもヨシュアは、特徴のある陣形を敷いていると見ることができます。でも、これがどんな意味なのかすぐにわかりません。

(3) 沈黙

三つ目の疑問。10節。「ヨシュアは民に命じて言った。「私がとぎの声をあげよと言って、あなたがたに叫ばせる日まで、あなたがたがたがは叫んではいけない。あなたがたの声を聞かせてはいけない。また口からことばを出してはいけない。」ひとことで言えば、六日間沈黙しなさいということです。黙って何もしないでただ敵の町の周りを歩くだけ。なぜ沈黙させるのでしょうか。叫ぶことや何かを口

にすること、それがエリコを攻め落とすことと何か関係があるのかわかりません。

(4) 主の軍の将の行方

そして四つ目の疑問。5章で、ヨシュアの前に主の軍の将と呼ばれる神が抜き身の剣を手にして現れたことについては、前回触れました。この主の軍の将が何をしに現れたのか。そのことについて、神はモーセにあらかじめ伝えておりました。神は、カナン之地に住む悪い者たちを追い払う。そうしてからイスラエルをカナン之地に導く。主の軍の将が来られたのは、その約束を果たすためでした。

それはよいのですが、この主の軍の将はこの後、忽然と姿を消してしまいます。聖書のどこを読んでも主の軍の将は登場してこないのです。カナン之地に住む悪い者たちを追い出すために来られたはずなのに、いったいどこへ行ってしまったのでしょうか。

2 さばく前に

(1) エリコ

とにかくイスラエルは、主に命じられたとおりに六日間同じことを繰り返します。そのときのエリコの様子が1節にあります。「エリコは、イスラエル人の前に、城門を堅く閉ざして、だれひとり出入りするものがなかった。」

町に入るには必ず城門をくぐらなければなりません。その門が閉じられました。エリコが、イスラエルの神を頑なに拒んでいることをこの門が象徴しています。エリコは、イスラエルが信じる神のことを知らなかったのでしょうか。いいえ。彼らは聞いていました。イスラエルがエジプトを脱出するとき、主が海の水をからしたこと、イスラエルの行

く手を邪魔した王たちを主が倒したこと。そのようなことはすでにエリコの住民の耳にも聞こえていた。そして実際に、エリコの住民であったラハブという女性がイスラエルの神を信じたのです。でも他の人たちは門を固く閉ざしたままです。町の中から出て来る者はだれもいませんでした。

(2) 六日間救いの手を差しおのばす

イスラエルは、エリコを攻め落とす用意はできています。しかし主は六日間、何もさせません。イスラエルから見れば、時間の無駄にしか見えません。それどころか、エリコに対して戦いに備える猶予を与えてしまうことになります。

でも主のなさることに無駄は一つもないはずです。では、なぜこんなことをされるのでしょうか。主はエリコを滅ぼしたいのでしょうか。いいえ。本当はエリコを救いたいのです。たしかにエリコは神に逆らう人たちでした。それでも救おうとされているのです。角笛を吹き鳴らし、契約の箱をかつがせ、城壁の周りを歩かせる。神がエリコのそばにおられることを知らせるために、そうします。今ならまだ間に合う。あのラハブがイスラエルに助けを求めたように、はやく町から出て来て、救われなさい。神は、そのように呼びかけます。六日間、神はエリコの町の人々に救いの手を差しおのべ続けます。それが六日間の意味でした。

(3) 主の軍の将

主の軍の将はいったいどこへ行ったのか。そのことが疑問でした。この方は、カナン之地に住む悪い者たちをイスラエルの前から追い出すために、抜き身の剣を手にしていま

した。その方がどこかへ行ってしまはずは
ありません。目には見えないけれど、イスラ
エルの先頭に立っておられます。

先ほどの陣形を思い出して下さい。なぜ主
は口を酸っぱくしてなんども繰り返す、陣形
について詳しい指示をしたのでしょうか。神は
霊ですから、目で見ることではできません。な
ので神がどのように働かれているのか、その
ままではわかりません。でも神は、私たちに
対してわかるようにと、最善の努力を傾けま
す。よくわかるようにと、主が戦って下さる
ことを目で見えるように示します。そのため
にどうしたか。本物をかたどった模型を示す
のです。模型と聞いて子どものおもちゃの類
と思っはなりません。模型を見ることで、
神の働きを良く理解できるようになります。
その一つの例が、モーセに示された幕屋でし
た。なんの模型か。キリストのからだを目に
見えるようにしたのが幕屋です。

それと同じように、この陣形は神の働きを
示しています。目には見えないけれど、主の
軍の将が戦いの先頭に立っておられること
を示します。契約の箱が進むことで、神がエ
リコに住む人々に悔い改めと脱出の機会を
与えていることを示します。

(4) 人は沈黙する

なぜ六日間、人は何も語ってはいけなかつ
たのか。それが最後の疑問として残っていま
した。イスラエルは神の奇蹟を目の当たりに
しながらヨルダン川を渡りました。約束の地
を目前にしています。あのエリコを攻め落と
すことができれば目的地はあとわずかです。
だれでも成功を目の前にして興奮します。自
分たちの力を誇るようになります。エリコを
攻め落とすことは簡単だ。そう思っても不思

議ではありません。でも彼らはどうやってこ
こまで来たのでしょうか。自分の力でしょうか。

六日間、聞こえてくるのは祭司たちが吹
き鳴らす角笛の音だけです。角笛の音を聞き
ながら、ひとりひとりの心が探られていきま
す。自分はどのようにしてここへやって来た
のか。自分が神に対してどれほどひどいこと
を繰り返してきたか。自分の力ではなかった。
神が先頭に立ち、戦っていてくれた。今、そ
の神がエリコの町の人々に呼びかけている。
門を開けて救われなさい。神は呼びかけてい
きます。でもエリコは門を開けようとしませ
ん。角笛の音は、神がまるで涙を流しながら
人々に神の元へと立ち返るようにと懇願し
ている。そのように聞こえてきます。沈黙し、
静まることができたとき、初めて主の御声が
心に届いてくることがあります。

(5) 主の救いの手

エリコは神の呼びかけを無視します。その
結果、七日目に城壁は崩れ、厳しいさばきを
受けてしまいます。では、エリコはここで救
いの計画からこぼれ落ちていったのでしょ
うか。ヨシュアの時代からおよそ 1400 年経
て、イエスはエリコの町の中を通られます。
そこでザアカイという取税人が救われ、エリ
コの町から大ぜいの者がイエスについてい
きました。そのことがルカの福音書に記され
ています。神はエリコを見捨てないのです。
ヨシュアのとて、神の救いの手を拒んだのにも
かかわらず、主の救いの思いは変わらずエ
リコの注がれ続けていたのです。

その恵みは今も私たちにも及んでいます。
私たちが救われるためにと、主はさばきの日
を先延ばしにしています。ひとりでも多くの
者を天の御国に招こうと主は働かれていま

す。

過去にひどいことをしたから私は救われない。そう思っているのでしょうか。あのとき主の救いの手が差しのべられていたのに、拒んでしまった。だからもう私には救いのチャンスはない。そう思っていますか。とんでもありません。過去が問題ではない。今あなたが門を開くだけ。主は、いまも角笛を吹き鳴らし、待ち続けています。

その角笛の音は皆さんの耳に聞こえているのでしょうか。しばし静まって耳を澄ましたいをお願いします。